

HAMAYOU

芦屋町ボランティア活動センター通信 136号

発行日 2021年7月1日

発行者
芦屋町ボランティア
活動センター「リード」
発行所
遠賀郡芦屋町中ノ浜11-6
町民会館2階
TEL 093-221-1011

髪を寄付するという支援

「ヘアードネーション」という言葉
を聞いたことがありますか。

病気や不慮の事故など何らかの理由で、頭髮に問題を抱える子どものために、無償で医療用のウィッグ(かつら)を提供する支援があります。このような支援を行っている団体に、髪を寄付することをヘアードネーションと言います。アメリカの団体が始めた支援で、日本では平成21年にヘアードネーションを専門に行う団体が誕生しました。

髪を寄付するには、31センチメートル以上の長さが必要です。ウィッグを1体作るのに、約30人から50人の髪が必要で、ウィッグの長さによつては、それ以上必要なこともあります。そのため、まだ手元に届かずに常にウィッグを待っている子どもが大勢いるのが現状です。

「病気になる」「髪を失う」ことは、

誰のせいでもありません。しかしそのことが遠因となつて、学校生活や日々の暮らしをスムーズに送れないことがあります。ウィッグで全てが解決するわけではありませんが、ウィッグを身につけることで生まれる前向きな気持ち、治療や生活に良い影響を与えるのではないかと思います。

ヘアードネーションが広がって、子どもの持つ無限の可能性が閉ざされてしまわないようになるといいですね。

ヘアードネーションに協力

私は、数年前から「人毛のかつらをつくるために髪を寄付する」活動があることは知っていました。ヘアードネーションという言葉は、最近になって知りました。ある女優が活動に参加したことで、広く知られるようになりました。

ヘアードネーションに協力している

美容院を、インターネットで探し予約しました。電話で、年齢的なことや髪の状態を相談したところ、年齢は関係なく、白髪染めをしていてもいいとのことだったので、私もヘアードネーションができました。



髪をゴムでいくつか束ねてカットします。



支援に参加できたうれしさと少しの達成感がありました。

カットした髪は、ゴムをつけたまま袋に入れて、団体に送付してもらいます。

この活動には、シャンプーなどの物品購入や募金といった、髪の寄付以外にも協力方法があります。

(廣田)

